

井上洋士さん



エイズをめぐる混沌の時代、医療と生活の情報を提供するNGO「SHIP」を立ち上げ、その後もHIV陽性の人たちを対象とする調査研究を率いてきた井上洋士さん（順天堂大学）に突撃インタビュー！

怒りと悔しさをバネに 陽性者研究の道を切り拓く

エイズ対策のキーパーソンたち



発行：MASH大阪
〒530-0027 大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎& 06-6361-9300
https://www.dista.osaka

この資材は大阪市のMSM向け HIV予防啓発広報紙作成事業で制作されました。

夏号の紙面VIEW

- 2面 時事ネタ WATCH
- 4面 知られざる偉人伝
- 6面 男朋友
- 7面 海外男街通信「コロンビア」

MASH大阪(以下M)：井上洋士さんといえば、Futures Japanという研究プロジェクトを立ち上げ、HIV陽性者の状況をさまざまな角度から浮き彫りにした研究を主導している方として知られていますが、そもそもHIVに取り組みきっかけは？

井上：九十年代の初め、大切な友人がHIVに感染しました。当時からHIV予防の方法はとも大きく扱われ情報もそこそこありましたが、感染して陽性になると情報のない別世界に放り込まれてしまう。その状況をなんとかしようと思ったのがきっかけですね。実際、彼は日和見感染症のひとつ、サイトメガロウィ

ルス(以下R)の網膜炎を発症したんです。ところがいくつかの病院が「受け入れ体制が整っていない」と診療を拒否した。結局その友人は失明してしまうのですが、患者にとって「情報がない」というのは、働きかける力、怒る力すら奪われてしまうことに改めて気づかされました。

M：情報を発信するために何をなさった？

井上：サンフランシスコとニューヨークのエイズNGOを訪ね、協力をお願いしました。どのNGOも「ここに資料があるから、好きにコピーしていいよ」と。あと、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)の図書館にも通いました。そこでも「好きにコピーしていいよ(笑)」。そうやって大量の情報を持ち帰り、仲間二人と情報を整理し、SHIP(Stay Healthy Information Project)のニュースレターというかたちで発信しはじめたわけです。情報を整理するにあたっては、米NGOのニュースレターが参考になりました。あと、発信する内容については、国内のある病院の医師に監修を引き受けていただきました。とても感謝しています。

M：ニュースレター発行にかかる費用は？

井上：賛助金を募り、またトヨタ財団からの助成金をもらい、自分たちで編集とデザイ

ンをやり、安い印刷所を探して、九十七年くらいまで年三〜四回、発行しました。その頃になるとインターネットが普及し、患者も医療者も活発に情報発信される流れができてきたので、SHIPの役割は果たせたかなと思ひ、活動を休止しました。ただ、悔しい気持ちもありました。自分らは医療関係者ではないので、こうした情報を医療機関にいる患者らには届けにくかったのです。その悔しさをバネに、一念発起して母校の医学部健康科学・看護学科に学士入学したんです。そして看護師の免許を取り、HIV治療の国の拠点となる国立国際医療センター(当時)のエイズ治療・研究開発センター(ACC)で働きはじめました。

M：薬害HIV被害者の生活実態調査という、大規模な研究に取り組まれたのもその頃井上：そうですね。九十六年、薬害裁判が和解というかたちになり、「患者の側が情報不足で主体的判断ができなかったために薬害HIVは発生した」と、我々のSHIPの活動に関心を寄せてくれた原告団から新たな調査の依頼を受けました。薬害被害者の方々の生活実態を調査するという大きなプロジェクトです。調査プロジェクトの長期的あり方を検討する準備に一年、患者の方々の調査に二年、遺族の方々の調査に三年、そして

編集部コメント

「大学時代の話だけでも2時間は語れますよ」とハニカミながら話す姿はまるでヤンチャな少年のようでした。怒りに突き動かされた活動を始めた約30年、意義のある歳の重ね方をされてきたとてもステキな方でした。

M：貴重なお話、ありがとうございました。

井上：二〇一〇年の日本エイズ学会でメルボルンのラ・トロップ大学の研究者が陽性者対象の研究発表をされて、これに感銘を受けたのです。千人規模の大きな調査で、陽性の人たちの本音が見える研究でした。翌年同大学を訪問し、極めて魅力的な調査研究であることがわかりました。「日本でやってみよう」と思い、資金獲得ができたので、今まで継続して取り組んでいるところですよ。やってみて特に研究者と行政との連携という点では「日本にはまだまだ壁があるな」と痛感しています。

再度患者と家族を対象とした調査に三年、全部で九年かかりました。その間に、東大の大学院で健康社会学を専攻し、そこで学んだことはFutures Japanにも活かすことができました。生活実態調査の結果は分厚い単行本にまとめてありますので、関心のある方はぜひ読んでみてください。

M：現在取り組んでおられるFutures Japanの調査はどのようなきっかけで？

井上：二〇一〇年の日本エイズ学会でメルボルンのラ・トロップ大学の研究者が陽性者対象の研究発表をされて、これに感銘を受けたのです。千人規模の大きな調査で、陽性の人たちの本音が見える研究でした。翌年同大学を訪問し、極めて魅力的な調査研究であることがわかりました。「日本でやってみよう」と思い、資金獲得ができたので、今まで継続して取り組んでいるところですよ。やってみて特に研究者と行政との連携という点では「日本にはまだまだ壁があるな」と痛感しています。

大阪全域 無料匿名検査場保健所 最寄り駅マップ 大阪府版(2020年6月12日現在)



エイズ、性感染症について、気軽にご相談ください!

HIV陽性とわかった時、またエイズや性感染症について相談したり、情報が欲しい時、大阪には相談できるサービスや支援があります。気軽にお問い合わせください。

HIV検査や性感染症などに不安がある方
コミュニティセンター デイスタ
community center dista
性感染症について知りたい、相談や心配事がある、そんな方はご相談ください。お話を聞き、一緒に考えるお手伝いをします。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人もいて安心です。

MAP
住所：大阪市北区堂山町11-2 堂山山よしビル4F
☎06-6361-9300
水曜～日曜/17:00～22:00 (月・火曜 休館)
https://www.dista.osaka/

HIV陽性とわかって間もない方
ひよっこクラブ
HIV陽性とわかって間もない人のためのグループミーティング
http://www.hiyokkoclub.com/

HIV陽性のゲイ・バイセクシュアル男性
Cafe・Bar an opportunity
～ただのきっかけ～
詳細はこちら http://www60.atwiki.jp/anopportunity/

エイズに関する様々な相談をしたい方
エイズ予防財団
エイズに関するご相談を電話で受け付けています。お気軽にご連絡ください。
☎0120-177-812 (無料)
※携帯電話からは、03-5259-1815まで (有料)
月曜～金曜/10:00～13:00、14:00～17:00(祝日は除く)

[南界堂通信第31号 編集後記]

●外出自粛要請に伴い自宅にいる時間が多分、これを機に断捨離にチャレンジしました。気持ち的にもスッキリしましたが溜め込んでしまう性格なのでこの状態をキープできるように心がけたいと思います。(伴伸)

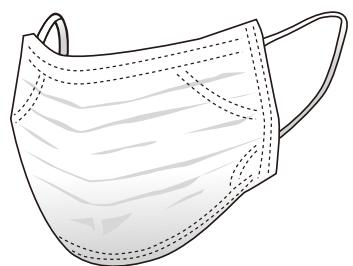
●本紙が発行される頃には開催されましたが、6月7日に青森レインボーパレードがWEB開催されました。昨年に続き今年も一緒に歩きます。青森の街を思い浮かべて。琵琶湖のほとりを。より良く生きるために。(泰平)

●仕事の会議が軒並みネット会議に移る中、skype、ZOOM、teams...等々比っつっ使っています。そして、多くの人の雇用や経営、生活に甚大な影響が及びつつあることに暗然となります...(大畑)

●前号で、病原体が発見されてから有効な薬が開発されるまでの年月はハンセン病68年、結核61年、エイズ5年と書きました。新型コロナウイルス感染に効く薬は、さて、どのくらいで登場するのか? (哲)

※井上さんが立ち上げた「SHIP」は既に解散しています。横浜にあるコミュニティスペース「SHIP」と混同されませんように...

新型コロナウイルスと私たち



新型コロナウイルスの感染の拡大

国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大しています(四月四日現在。既にd i s t aも臨時休館)。

NHKの報道番組に(いつもMASHがお世話になっていゝ)大阪市立総合医療センターの白野倫徳医師が出ておられて、若年層でも急に悪化するとのことで、「普通に来院していた患者さんが、数日後、人工呼吸器が必要な状態に悪化」という例を紹介し、警鐘を鳴らしていました。

とにかく手洗い、消毒を徹底、不要な外出は控え、ソーシャル・ディスタンスも…「自分も感染源かも知れないと思つて行動する」という指摘に傾聴。

そういえば、新型コロナウイルスについてテレビに出てくる医療者は、これまでHIV/エイズの診療にあたってきた医療者とも重なる感があります。それは、特に新型コロナウイルス

イルス感染症が(今の所)治療法のない感染症であり、大きな病院の診療科のうち、こういった治療法が確立されていない感染症を専門に取り扱っているのがHIV診療だったからかも知れません(それと呼吸器系日和見感染症との共通性も)。

また、「クラスター」という専門用語がとにかく注目されていますが、こうした感染経路を探索して予防につなげる手法は、HIV/エイズ対策でも実践されてきた疫学的手法とも重なります。

それにしても、新型コロナウイルスの医療関係者がHIV診療や行政の担当部署と重なっている部分が多いということですから、「このことで、HIV診療も圧迫する可能性が高く、またHIV感染の当事者にとつてはコロナ感染のリスクを考えると通院しにくい状況で(事実、院内感染の報道も)、HIV抗体検査の機会も減っているのはコミュニティにとつては大問題」という指摘もあります。引き続き注視して

きたいと思います。

コロナ対策助成金は風俗業は除外?

「感染症による社会の動揺は最も脆弱な層を撃つ」というのはHIV/エイズで言われていたことですが、今回の新型コロナウイルスでも通底する面があるかも…:と想ったのが入ってきたからです。

「新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための休校に伴い、厚生労働省は子どもの世話で仕事を休んだ保護者向けの助成金を新設したが、風俗業などで働く人は対象外となっている。支援団体は見直しを求めたが、厚生労働省は応じない構えだ。

この助成では一定の要件を満たせば、雇われて働く人は勤め先が月額八三三〇円(上限)を、フリーランスは本人が一律月額四一〇〇円の助成を受けられる。だが要件では「暴力団員」や「暴力主義的破壊活動を行った団体に所属する人」

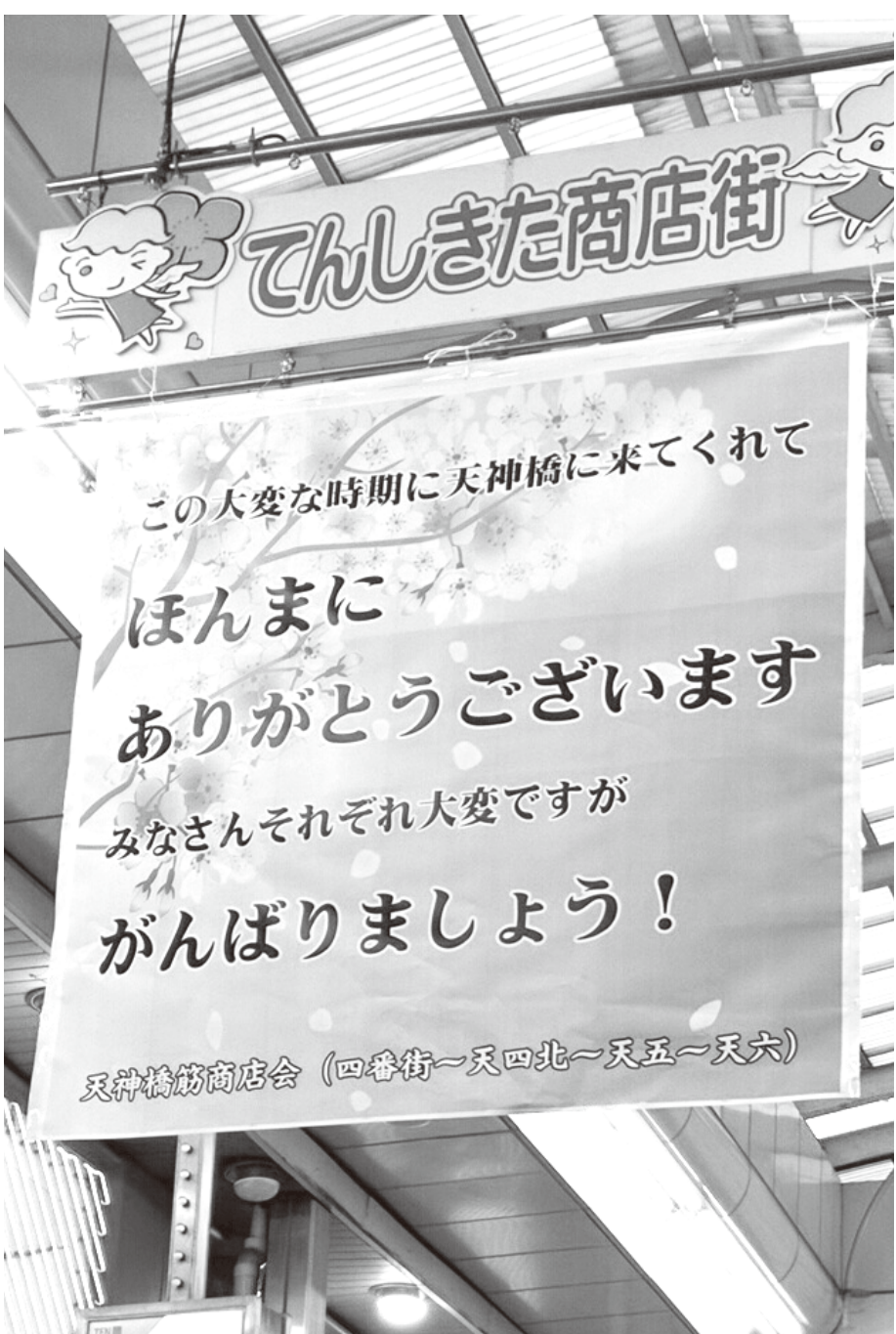
などと並び、「性風俗業」や「接待を伴う飲食業」の関係者を対象外とする。」(朝日新聞四月三日)

見直しを求めた支援団体は、SWASH(代表:要友紀子さん)で、四月二日の厚労省宛て要望書では「風俗は日払いで、今回のような事態によって収入が激減しやすい仕事です。

また、社会的排除を受けやすい、困難を抱える親たちの扶養の置きや困窮を軽減するためには、いま子育てをしながら風俗で働いている人々が求める支援を国が提供することは不可欠」だとしています。

厚生労働省は、支給除外について「公金を投じるのにふさわしくない業種との判断だ」と説明

したそう(毎日新聞四月三日)、これって差別ではないのか?と思っていたら、この問題は国会でも取り上げられ、官房長官が見直しを言明。四月七日に厚生労働省は「風俗営業等関係事業主及びその雇用する労働者を支援の対象とする」等の見直しを行いました(厚生労働省HP)※



※この見直しまでの動きは、要さんがWANのホームページに寄稿しています。https://wan.or.jp/article/show/8868 「コロナ禍と差別～風俗業への支援金不支給見直しまでの奮闘裏話～」

向き合う ゲイコミュニティ

中国武漢で始まった新型コロナウイルス感染症。「不要不急の外出自粛要請」や「兵庫・大阪間の往来自粛要請」を国や行政が呼びかけ、「非常事態宣言」も発令されてしまいました。四月末に予定されていた「東京レインボープライド」、五月に予定されていたHIV検査会を兼ねた大型イベント「NLGR+2020」の開催中止が決定。そしてオリンピックも開催延期となり、ゲイイベントから世界的な祭典までが中止や延期を余儀なくされる状況になってしまいました。そんな状況の中、ゲイバーやハッテン場を取り巻く状況は休業や感染予防の対策をしながらの開店など、たくさんの方の苦渋の決断をされてきたと思います。また、イベント関係の人からも同様に中止や延期といった対応を伺い、とても大変だったと思います。

「来てね!」ということも「来るな!」ということも出来ないとても複雑な心境でした。当初私も軽い気持ちでいました。買い占めをする高齢層、「自分は大丈夫」と危機感のない若者、対処しきれない

政治家。キレイごとかもしれないけど、コロナウイルスを早く収束するには「他人への思いやり」がこの国には一番必要なかもしれないね。「うつらない努力」よりも「うつさない努力」を」とSNSで心情を吐露しているのは堂山でダイニングバーを営む「楽都」のマコトさん(南界堂通信六号「男朋友」参照)。営業時間の短縮、席数を減らす、入口のドアを開放しての定期的な換気、テーブルやいす、ドアノブなどのアルコール消毒を心掛け、スタッフには休んでもらったりしながら営業は続けていましたが、非常事態宣言を受けて4月8日から臨時休業に入りました。

「もちろんお客さんは来なくなり収益がなくなっても、家賃、おしぼり代、電気、水道、ガス、地域の組合費その他もろもろの費用だけは毎月かかります。毎月大金を泥棒に入られるような感じですねえ、恐ろしいです。あちらこちらでバーを名指しにしますけど、その他のお店や交通機関の方が混み合ってますし、逆にリスクは低いと思います。いまは利益ではなく赤字を減らす

努力が必要です。自粛しつつも短時間でも開けざるを得ないですし、これが続くと食べに行けるはずないですね。もともとこの辺りのお店は低価格設定が多く、利益をガンガン出すスタイルではないので細々続けるしかないかと思っています」と、ミナミにあるバーのマスターは苦悩されています。渦中多忙の中、お話を聞かせていただいた店舗様、本当にありがとうございました。

四月十一日の時点で、ゲイコミュニティのお店は、ハッテン場も含めて約半数が休業、半数はいろいろな対応をしながら、さまざまなお話を抱えながら営業を続けています。ついこの間までは、他国での出来事、クルーズ船の中だけの出来事とらえていたことが目の前に迫り、静けさの似合わない街に静かな夜が訪れています。

新型コロナウイルスはもちろんSEXでも感染します。キスだけでも感染すると言われてます。もちろん乱交や複数でのSEXも厳しいでしょう。密閉・密接・密集に近づかないように、夜の街に出歩かないように、不要不急の外出は控えてくれ、そう言われても、出会い系アプリを開けば「SEXSEXSEX」と叫んでいる人、SNSでは外出して飲んでいる写真を投稿するする人。やりたい気持ち

ちはわかる一方で、自分の行動が誰かの命の危機を招くかもしれないという想像力がなにか、とも思ってしまうます。「敵を知り己を知れば百戦殆からず」と孫氏は言いました。人は敵のことはよく観るものですが、自分自身のこととなるとそうはいかないものですよね。

と思えば、そんな行動をとる人達を鬼の首を取ったような顔で非難する人、ハウリングしている人のプロフィールを晒す人もいて、まるで怒号が聞こえてきそうなほど色々な言葉がオンラインでは飛び交っているのに、実生活の部屋の中はシンシとしていない不思議。

一体、誰のために、何のために、こんなに我慢しなければいけないのだろうか、自分がダメになりそうに感じてしまいます。そんな圧力を感じます。

今、私たちは歴史の戸口に立っています。パンデミックとして教科書にも載っている一〇二年前のインフルエンザ。戦争中、他国が情報を隠蔽するなか、スペインは唯一感染動向を情報公開したために風評被害にも苦しめられたといわれています。

そして三十年前のエイズパニック。今の世界の動きを見ていると三十年前を思い出すというDJの方もいました。

人種、セクシュアリティ、ジェンダー、セックス…あらゆることに影響のあったエイズパニックからわたしたちは多くのことを経験しました。感染症の流行に伴って、その陰で脆弱な層が被害にあう中で、排除や非難を乗り越えて、なんとかウイルスと共に生きる方法を模索してきたのが私たちです。しかし、現在の新型コロナウイルスに関わつて加熱する報道を見ていると本当に学んでこれたのか、疑問が残ります。

自分自身が感染している可能性を考えてと言われると、そばにいたいのにそばにいけない、会いたいののに会えない、そんなことを思う毎日だと思えます。とにかく家にいてと言われても、一人で不安に思う人も多いと思います。人と人がつながってできるのが、コミュニティ。ドイツの哲学者マックス・シェーラーは言いました「愛こそ貧しい知識から豊かな知識への懸け橋である」。今は、想像力を働かせるときかもしれません。誰かのために、自分自身ができることを、積み重ねると、感染症に少しだけ強いコミュニティの日常が、形を変えて、戻ってくるかもしれません。

だから、またいつか、元気に、夜の街で会いましょう!(町登志雄・伴仲昭彦)



そんな時代もあった



今回の出演者(カップル後)右:どすけ@o_m_a_n_u_s / 左:熊巻@kumaichijianaiyo ※描かれている内容は出演者の実体験ではありません。

作家プロフィール●トラウマ

主にTwitterにて不定期で漫画を描いています。ゲイの欄にスポットライトを当てる内容がメインです。「Remini」という昔撮った写真が綺麗になるスマホアプリがあります。中島みゆきの「時代」を聴きながら昔の写真を見返してみるのも良いものですよ！グッズ販売などもしていますので、是非ご覧ください。

Twitter ID : @tinkerhells (https://twitter.com/tinkerhells/status/1010581188128354304?s=21)
PIXV : https://pixiv.net/member.php?id=41305182

あなたもトラウマ漫画に出ませんか?

※プスに描かれてもいいという方 ※顔画像の確認が出来る方 ※配信アカウントリンクOKな方(配信は選べません) ※訴えない方 希望される方はTwitter経由でご連絡下さい。

実録! R40 物語

アラフォーからアラカン世代の皆さま、お待ちいたしました! 「あるある」「ドキッ」「アラヤダー!」といった中高年世代にドビシヤな内容を、年齢や個性もバラバラな作家さんたちが4コマ漫画でつづるこのコーナー。今回ご紹介するのはトラウマさんの作品です!

脳内の血管が詰まり発生する症状。顔の片側、片方の手足の脱力やしびれ。ろれつが回らないといった症状が現れます。まず話せる内に救急車を呼ぶこと。そして動ける内に家の鍵を開けることが大切です。

■五十代脳梗塞発症のケース

脳内の血管が詰まり発生する症状。顔の片側、片方の手足の脱力やしびれ。ろれつが回らないといった症状が現れます。まず話せる内に救急車を呼ぶこと。そして動ける内に家の鍵を開けることが大切です。

LGBTであることで救急車を呼ぶのに躊躇するかもしれません。しかし、まず命を優先すること。懸念は生きてからの問題なのでそれから考えては。

入院の準備をする間もありません。寝巻など病院で必要なものは借りられます。以前は付添婦を雇う必要がある場合もありましたが、今は看護師が行いました。医療費が高額になり自己負担限度額を超える場合は後から払い戻しできますが(高額療養

時間を読み込んでいくという作業はアニメにも映画にもない、漫画特有のものだとはいえないだろうか。アニメも映画も、観客は登場人物と同じ時間を生きる。しかし漫画は違うのだ。

もしそうだとしたら、山岸涼子の奇才・異才・天才振り付け。『日出処:』の前に山岸先生は「アラバスク」という長編パレエ漫画の傑作を発表している。これはロシアパレエの世界で生きていくノンナ・ペトロワの成長の物語なんだけれど、パレエの専門家から見ても、山岸の描くパレ

最後に dista だから聞けることはどの質問に、HIV陽性者が病気に寝たきりで嚥下(えんげ)障害が生じたケースで抗HIV薬を二か月ずつ粉砕する対応ができる薬局を探したというお話を頂きました。

65才代 脳梗塞で突然入院 パートナーあり Aさん

第十二回は「中高年世代のみと突然の入院」をテーマに、ケアマネージャーの梅田政宏さんをゲストに迎えて三月十八日に開催されました。平日のところ多くの方に参加いただき関心の高さがうかがえました。今回は二つのケースから考えました。

費制度)、限度額適用認定証の交付を受けていれば医療機関での支払額が抑えられます。

後遺症が残った場合。介護保険が使えるのは六十五歳以上と書いていません。か。四十歳から六十四歳の方は「老化が原因とされる病気による介護等が必要になった場合」に介護保険が使え、脳梗塞(脳血管疾患)も含まれます。要介護認定申請は退院するまでに行うのが賢明です。また、ケアマネージャーと退院後のことを相談しておきましょう。

■六十代大腿骨頭骨骨折のケース

股関節の中で大腿骨の骨頭付近の頸(くび)の部分の骨折で、寝たきりになるケースも多いようです。原因として、高齢になるとすり足になり家の中で何かを踏んですべる、じゅうたんの端に引っかかる、冬場ではこたつ布団に足を取られるといったささいなことでの転倒が多いようです。まず立ち上がれなくなり、一人で暮らして室内にいる時だと床を這って電話にた



元祖BL作家山岸涼子の、BLを超えた『日出処の天子』



山岸涼子 (漫画家/1947~)

初めて『日出処の天子』を読んだとき、文学も含めて、主人公たちの苦悩をこれほどまでに生々しく描き出した作品があっただろうかと感じた。少女漫画に詳しい友人にそのことを話したところ、「いや、この作品は日本のドストエフスキーだよ」って言われて納得したことを思い出した。今回読み返してもその印象は変わらない。「嗚呼、やっと終わってくれた……」。これが、全巻読み通して、頁の端に「完」の一字を見つけたときの率直な感想ね。次に読むのは十年後かしら(生きてるのかしら)……。

読んだとき、文学も含めて、主人公たちの苦悩をこれほどまでに生々しく描き出した作品があっただろうかと感じた。少女漫画に詳しい友人にそのことを話したところ、「いや、この作品は日本のドストエフスキーだよ」って言われて納得したことを思い出した。今回読み返してもその印象は変わらない。「嗚呼、やっと終わってくれた……」。これが、全巻読み通して、頁の端に「完」の一字を見つけたときの率直な感想ね。次に読むのは十年後かしら(生きてるのかしら)……。

厭戸皇子(のちの聖徳太子)が同性愛者だったという大胆極まりない設定なんだけれど、超能力ゆえに絶対的な孤独の世界に生きる厭戸に深い共感を寄せながらも、姫君との愛

を成就することで厭戸の呪縛から抜け出そうとする。読者はそれぞれに感情移入しつつ、二つの物語―厭戸の悲恋の物語と毛人の葛藤と自立の物語―を同時に生きることになるわけだ。しかし作者は、二つの物語のいずれかに読者が肩入れすることを許さない。或るときは厭戸の切ない情に、また或るときは毛人の葛藤に共感せざるを得ない、そういう風にこの作品はつくられている。

とここまで書いてきて「待てよ」という声が胸をよぎる。もう一人の自分がいう、「これだとまるで物語や小説について語っているみたいだけれど、これ漫画でしょ? 漫画なら漫画として語らなきゃね」。物語や小説のキモが、読者が文字記号をイメージに転換するところにあるとすれば、漫画のキモは、コマ割りされた場面を読者の意識がつかないでいくというか、場面と場面とのあいだに時間を読み込んでいく、そういうところにあるのではないか。この、



比較的大きな事業所だと制度の利用に抜けの無い対応ができるようです。小規模の事業所のケアマネージャーには小回りが良く対応をされる方もいらっしゃると思います。自分のニーズに合った方を探るのが良いでしょう。普段から考えておくとも良いかもしれません。

文●塚塚哲郎

あと少しで定年を迎える大学教員。聖徳太子といえば法隆寺。この機会に、再訪しました。ウーム、梅原猛が唱えた、「法隆寺は聖徳太子の霊を封じ込めるために建立された」説、リアリティありと感じました。あの、境内全体に何かしら靈気がみなぎっている感じ、山岸涼子先生もきっと同じ想いだっただけでは。でもそれは気高く、爽やかな靈気なのですね。そこは『日出処』に描かれた厭戸皇子とは少し違うのかも。因みに、BLの最初の作品は山岸先生が一九七二年に発表した『ゲッシングゲーム』らしい。これは未読ですけど『日出処』は全巻distaに揃っています。読んでね。

と、ここまで書いてきて思い出しました。『日出処:』が出版されてまもなく、毎日新聞奈良支局の記者が「法隆寺が山岸の漫画にカンカンに怒っている」という趣旨の記事を捏造する、という事件がおきた。一九八四年のことね。その記者さん、「聖徳太子は同性愛者だった」という物語の設定がよほど我慢ならなかったのでしょうか。でもその記者さんはきっと、毛人の葛藤と自立の物語、繊細極まりない日本画的漫画の魅力は見落としていたんじゃないかな。

リーナの手足の振りは完璧なんだそう。それに比べると、「日出処:」ではコマ割りの大胆さ、コントラストの激しさ、そして線描の繊細さが際立つ。「アラバスク」とはまったく違う日本画の世界が繰り広げられているのだ。

男 for you 朋友

プリヴェンション・アクセスキャンペーン

ここ2、3年の間で日本にもかなり浸透してきた「U=U」というメッセージをご存知ですか？ HIVに感染していても、ちゃんと治療を続けているとウィルス量が検出されなくなり、その状態であれば相手にHIVを感染させる事はないという、HIV陽性者にとってはとてもホットで明るいメッセージを持っています。この「U=U」を広めるべく世界規模で展開しているプリヴェンション・アクセスキャンペーンの発起人・ブルース・リッチマンが来日！ distaも訪問して下さったので交流会を兼ねた意見交換会を実施しました！



プリヴェンション・アクセスキャンペーンの発起人
ブルース・リッチマンさん

■きっかけ

「エイズ死」というイメージを三十年経った今でも抱き続けている人は少なからずいる。でも実際にはどうなのか？医療の進歩や治療薬の開発でエイズでは死なない時代がやってきている。死なないという事は未来があるという事。

それはそれで素晴らしい事だけど、HIV陽性者に、「自分が感染源となり相手を傷つけてしまうのではないか？」という不安から、セックスや恋愛を諦めていたり、億劫になっていく人が多いし、実際にボクもそうだった。そんな時でも目を疑う研究結果と出会ってしまったんだ。 **投薬治療を受け**

ているHIV陽性者と陰性者という組み合わせで感染率を調べるという研究で、なんと感染率がとても低く、なんとHIV陽性者だからといってセックスや恋愛諦めなくてもいいんだ！「もっと積極的になってもいいんだ！」「ボクたちにも明るい未来が描けるんだ！」。とてもハッピーな気持ちになれたし、このポジティブな研究結果は多くのHIV陽性者に明るい未来を描きかけられるとも思った。そこから試行錯誤を繰り返し、「U=U」という造語を作り出したんだ。研究者たちには、研究結果やそこから必要とする人に届いていないことを伝えた。研究者は研究のプロであって、結果を周知するプロではないし、届いていないことに気付いていなかった。でも、その後なんと「U=U」が真実であることを伝える宣言を作り上げる活動にも参加してくれたんだよ。

■キャンペーンの起ち上げと現状

研究結果のデータを持って健康局や行政に働きかけたんだけど、「エビデンスが不明瞭な研究は信用しがたい」と突っ返される事の連続。それでもボクは諦める事ができなかった。SNSを中心に地道に発信していき、今では世界規模のキャンペーンになってはいるけど、このキャンペーンそのものはたった三人で運営しているんだ。最初の三年間は自費を投じて展開していたんだけど、そんなボクに嫌気をさせたのか呆れてしまったのか、当時付き合っていたパートナーはボクの元から去って行ってしまったよ(笑)。それでもボクは何かに突き動かされるようにこのキャンペーンを続けていくしかなかった。そうこうしている内に、ニューヨーク市の保健局がボクたちのキャンペーンをバックアップしてくれる事になり、それをきっかけに行政やNGOもどんどん賛同してくれるようになったんだ。英語

圏では「U=U」という言葉だけでなく、その国の言葉に置き換えて発信している国もあるので「K=K」だったり「O=O」「H=H」だったりと言葉は様々なんだ。賛同してくれている団体の活動はSNSやインターネットを通じて拝見しているし、ボクたちが拡散することで各国の取り組みを共有する事ができる。日本でも「ぶれいす東京」と「MASH大阪」の二団体が賛同してくれています。「U=U」を広める事を目的に、セクシーかつファビュラスなクラブイベントやSNSを最大限に活かしたアビールは本当に素晴らしいと感じました。あなたの方の活動には敬意を表します。

■これからの展望

アメリカにはたくさんエイズNGO・NPOがあるんだ。これだけ世界規模で「U=U」が広がっているにも関わらず、「U=U」に関して無関心だったり不信感を持っている団体

も多く、例えばサンフランシスコで一番大きなエイズNGOのHPには「U=U」に関する記載が全くない。そういう団体に対して「「U=U」に関する表明を出して下さい」としつつく申し入れをしているので、「面倒くさいヤツだなー」と煙たがれているのも事実です。「U=U」はHIV陽性者にとっても有益なメッセージであって、ボクを嫌ったところで仕方ないと思うんだけどね。これからもしつつくく申し入れは続けていくつもりだよ(笑)。既に賛同してくれているあなた方はこれからも良きパートナーとして一緒に活動していきましょね。

■編集部コメント

一部の人々からは嫌われているとはいえ、彼らの活動を評価している著名な方々もたくさんいて、親しみと敬意の意味合いを込めて「Mr. U=U」と呼ばれている、とても包容力のあるブルース・リッチマンでした。

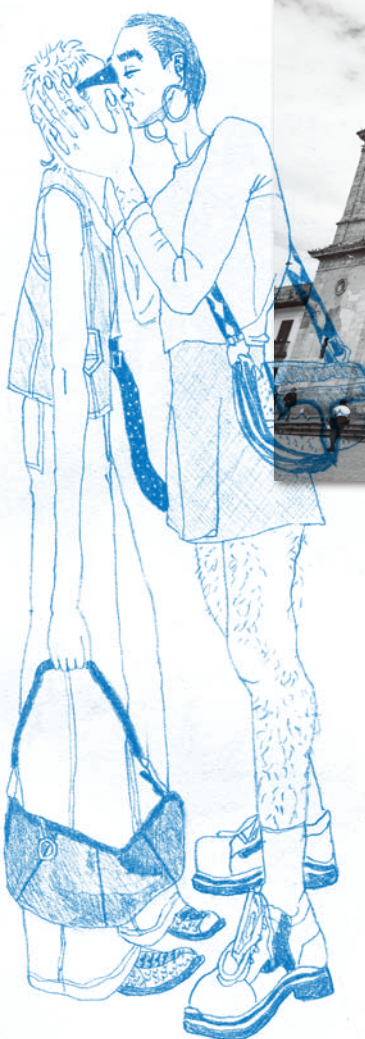
[Colombia] 海外男街通信



プライドパレードに参加した時のもの



「絵を描く事が好きです!」というサンティアゴ君。実際に見せてもらうとビックリ!お絵かき程度のレベルではなくアーティストチックなペン画でした!(左の絵)distaにも飾っているので興味のある方は是非distaまで!



南界堂通信の読者の皆さん、コンバンワ!コロンビアの留学生サンティアゴと申します。大阪大学で日本語と日本文化を学んでいます。二十三歳で、出身は首都のボゴタです。コロンビアの大学で副専攻として日本語を学び、日本に滞在するのは二回目。以前名古屋に一年間滞在していました。

コロンビアは人口四千九百万人で、スペイン語圏ではメキシコに次いで人口の多い国です。日本と違って若い人が多く、国民の平均年齢は三十一歳。国民の八割はカトリック教徒ということになっていますが、若い人のあいだでは宗教離れが進行しています。

十四歳の頃、自分がゲイではないかと悩み、心を閉ざすようになりました。心配した母からカウンセラーに行くよう勧められ、カウンセリングを受けたら、こう言われました「君には何の問題もない。ここに来なきゃいけないのは君の親のほうだよ」。私は母にカミングアウトし、母は涙を流しましたが、理解しようとしてくれました。

十五歳になると化粧をしたり、フェミニンな服を着たりもしました。当時すでにボゴタでプライドパレードが開催されていて、自己表現の機会には事欠きませんでした。大学

に入ってから舞台芸術を専攻し、ゲイをテーマにした舞台作品をつくりました。まずゲイの人たちを集めて経験を語ってもらおう。その記録と自分自身の経験とを混ぜ合わせて脚本を書く。演出もやりました。両親も見に来てくれました。両親はテーマが何かも知らないままに私の叔母たちを招待していたので、結果的に親戚中にカミングアウトすることになりました(笑)。

私がこうした表現活動ができる背景には、性的マイノリティの解放運動がコロンビア社会で実を結んできたことがあります。運動は七十年代に始まり、八十年に同性間のセックスが合法化されています。運動は戦闘的で、圧力団体として政治に働きかけてきました。ラテンの文化にはこういった戦闘性があると思います。二〇〇七年には同性パートナーの権利を認める判例を憲法裁判所が出しました。その後も運動は続き、二〇一六年には憲法裁判所が同性婚を認める判例を出しました。コロンビアはアルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルに続いて南米大陸で四番目に同性婚を認める国となりました。

今のボゴタ市長はレスビアンを公言する女性ですし、パートナーの女性は国会議

員です。彼女以外にもカミングアウトしている国会議員が複数います。プライドパレードも多くの大都市で開催されていますし、ボゴタでは大きくなりすぎて北部と南部に分かれ、異なる日程でやるようになりました。三年前のパレードの折、トランスジェンダーのグループのフロートをめぐる争いがあり、以来トランス女性性は独自のパレードを行うようになりました。これもラテンの戦闘性のあらわれでしょうか。私は両方のパレードに参加しているんです。

人口七百五十万のボゴタにはチャピネーロ街というゲイタウンがあって、小さなバーが多いのですが、「Tea Room」という巨大なクラブが飛び抜けて有名です。ラテンアメリカ最大のゲイクラブらしい。そんなコロンビアからみると、日本のLGBT運動はおとなしい印象があります。パレードはありますが、政治的な運動が活発とはいえないような...でも日本には日本の歴史や文化があるのでしょう。日本で私はLGBTコミュニティがどう生成されてきたかを研究していて、distaやそれ以外のいろんな団体に顔を出しています。研究がまとまればdistaでも発表したいと思っています。

